

【 専門分野 看護の統合と実践 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
看護管理と医療安全	1	30 時間 (15 回) ①20 時間 (10 回) ②8 時間 (4 回)	3 年次・前期	① 江籠 カエコ ② 木下 博子	
学習目標	1. 看護とマネジメントについて理解できる 2. ケアのマネジメントが理解できる 3. 看護サービスのマネジメントが理解できる 4. チームの一員としての自覚と責任について理解できる 5. 安全な看護を提供するための知識・判断力・倫理観を養う				
DPとの関連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 (江籠)	1. 人々の生活と看護	講義	10 回 (江籠)	3. 看護と専門機関・ 職能団体	講義
2 回 (江籠)	2. 看護管理過程	講義	11 回 (木下)	4. 保健医療福祉政策の動向 1. 医療安全と看護の責務	講義
3 回 (江籠)	3. 患者の権利擁護と 看護倫理	講義	12 回 (木下)	2. 医療安全施策と医療の質 の評価	講義
4 回 (江籠)	4. 安全管理体制 5. 看護実践の評価と改善 6. 看護研究と実践への応用	講義	13 回 (木下)	1. 事故発生メカニズム 2. 事故分析、事故対策 3. 組織としての取り組み	講義
5 回 (江籠)	1. 人間関係を構築する技術 2. 組織の効率性を高める 技術	講義	14 回 (木下)	4. 事故の原因分析と対策 5. 患者、家族との協働	講義
6 回 (江籠)	1. 組織の理解	講義	15 回	1. 看護業務と事故発生要因	講義
7 回 (江籠)	2. 看護部門の組織	講義	(木下)	2. 医療事故の種類と 安全対策	講義
8 回 (江籠)	3. 経営とは	講義	14 回 (木下)	3. 医療事故後の対応	講義
9 回 (江籠)	1. 看護教育体系 2. 看護職論 3. 看護専門職者と生涯教育	講義	(木下)	4. 看護業務上の危険と 防止策	講義
9 回 (江籠)	1. 看護と法令 2. 看護と行政組織	講義	15 回	まとめ 終講試験	試験
評価方法	筆記試験 100 点 ( ① 70 点 ② 30 点 )		教科書	ナーシンググラフィカ (メディカ出版) 看護の統合と実践①看護管理 看護の統合と実践②医療安全	

【 専門分野 看護の統合と実践 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
災害と国際看護学	1	30 時間 (15 回)	3 年次・前期	藤原 裕	
学習目標	1. 災害の種類と特徴が理解できる 2. 災害看護の定義と特徴が理解できる 3. 災害の対応や対策が理解できる 4. 国際化と看護について理解できる 5. 国際援助や支援のあり方について理解できる				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 災害看護の定義	講義		3) 継続治療が必要な人	
2 回	2. 災害と倫理			4) 外国人	
	1. 災害の種類と 災害サイクル	講義		5) 遺族	
	1) 災害関連死		9 回	1. 被災者、支援者の	講義
	2) 災害サイクル		10 回	心理の理解と援助	講義
3 回	1. 災害医療に関する国の 施策	講義		1. 災害初期から中長期に おける看護活動	
	1) 防災計画と医療計画			1) 医療救護所、避難所、 応急仮設住宅、自宅避難 者、復興後	
4 回	2. 災害医療に関する法律	講義		1. 災害時に必要な医療・ 看護技術	講義
	1) 災害時の医療体制		11 回	1) トリアージ、応急処置	
	2) 被災者支援体制			2) 移送、搬送	
5 回	1. 災害に備えた事業 継続計画	講義		3) 災害教育	
	2. 災害時の組織体制		12 回	1. 国際看護とは	講義
	3. 連携と協働			2. 日本における国際看護	
	4. 健康危機管理			施設見学	
6 回	1. 支援を必要とする	講義	13 回	「地震および防火訓練」	施設見学
7 回	要配慮者	講義	14 回		施設見学
8 回	1) 乳幼児、子ども、妊産婦	講義		まとめ 終講試験	試験
	2) 高齢者、障害者		15 回		
評価 方法	筆記試験 100 点		教科書	ナーシンググラフィカ (メディカ出版) 看護の統合と実践③災害看護	

【 専門分野 看護の統合と実践 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
卒業研究	1	30 時間 (15 回)	3 年次・後期	中畑 千恵	
学習目標	1. 研究の意義が理解できる 2. 論文作成の方法や論理的な思考力を養うことの意味を理解できる 3. 卒業時の自己の看護に関する考え方をまとめることができる 4. 論文作成から発表の流れを理解することができる				
D P と の 関 連	■1)多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 ■2)看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3)自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4)健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5)身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6)健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7)専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 研究とは	講義	12 回	1. 看護学会とは	講義
	2. ケーススタディとは			2. 看護学会の様子	
	3. 研究が看護にもたらす意味			3. 発表のスタイル	講義
2 回	1. 研究計画書の書き方	講義	13 回	1. 発表分科会	講義
	2. 文献とその活用法		14 回	2. 役割遂行	講義
	3. 今後の計画について				
3 回	1. 研究計画書作成	講義	15 回	ポスターセッションとは	講義
	2. 論文のまとめ方				
	1) 論文の構成要素				
	2) 基本ルール				
4 回	1. テーマの絞り方	講義			
	2. 文献の活用の仕方				
	3. 論文の指導の受け方				
5 回	1. 論文作成	演習			
6 回	2. 指導・修正	演習			
7 回	3. 指導を受ける姿勢や	演習			
8 回	態度	演習			
9 回		演習			
10 回		演習			
11 回		演習			
評価方法	レポート評価 100 点		教科書	看護のためのわかりやすい ケーススタディの進め方 (照林社)	

【 専門分野 看護の統合と実践 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
総合看護技術論	1	30 時間 (15 回)	3 年次・後期	中畑 千恵	
学習目標	1. 看護実践に必要なアセスメントを行い、状況に応じた看護技術について学ぶ 2. 複数患者の看護実践において優先順位を判断し、適切な行動を考えることができる 3. 既習の知識・技術・態度を統合し、看護実践ができる能力を養う				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 ■2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. チームでの連携と協働 1) 看護のマネジメント 2) 報告、連絡、相談、調整 3) チームの一員としての自覚と責	講義	7 回 8 回	4) 発表・検討 まとめ 看護技術の実践に向けて説明	GW・演習 GW・演習
2 回	2. 看護業務、チームの構成 仕事の組み立て方	講義・GW	9 回 10 回	1. 社会人基礎力について 2. 多様な人々と関わって 仕事をするための能力	講義 講義
3 回	3. 優先順位とは 1) 患者の理解 2) 必要な看護援助の理解 3) 複数事例における 優先順位の理解	講義・GW	11 回 12 回	「臨床実践能力」と「社会人基礎力」の関係	
4 回	4. 複数事例を受け持つ時の 考え方 1) 行動計画立案 2) 優先順位の考え方 3) 時間管理について 4) 倫理的配慮について	講義	13 回 14 回 15 回	1. 看護技術の実践 1) 援助計画 2) ペアリング 3) 実践 4) 評価修正 5) まとめ	演習 演習 演習 演習 演習
5 回 6 回	5. 複数事例を受け持つとは 1) 事例で考える 2) 根拠を考える 3) 看護計画を考える	演習 演習			
評価方法	レポート評価 100 点		教科書	講師資料	